

注目商品 電子磁気工業「AMS-10アモルファスワイヤ測定システム」

磁気応用製品メーカー 東京都北区、児島隆治社の電子磁気工業（本社）は、このほど超極細磁



金属材料、線材メーカーに拡販を目指す

性ワイヤ（数分径から）を測定する「AMS-10アモルファスワイヤ測定システム」を開発した。ワイヤを束ねる必要はなく、1本から簡単に測定できる。極細ワイヤであれば、結晶構造を持たないため電気抵抗が高く、渦電流が発生しにくい。渦電流による損失が少ないためセンサー関係の他に、電磁鋼板よりも磁気特性

超極細磁性ワイヤ対応

束にせず1本で測定

できる。測定の周波数は100から1キップで交流発生磁界は数ミテスラ、均一磁界発生用ヘルムホルツコイル内に設けられた差動ピックアップコイル（内に試料）により、交流BH特性を測定する。アモルファスとは結晶構造を持たない材料で非晶質材料として開発されたもので、磁気センサーのほか、盗難防止用のタグなどに使用されている。金属材料、線材メーカー

おり、すでに5台の販売実績がある。アモルファスの箔状のもの、リボン状のものは同社のBHアナライザで測定できたが、径が数マイクロメートルのワイヤになると測定が困難だった。これまでは、VSM（振動試料型磁力計）で測れるかどうか厳しい測定だった。「数分径のワイヤの場合、これまでは見た目上の断面積を増やすためにワイヤを何本も束ねる必要があったが、この測定機は1本だけで簡単に測定できる。検査業界でのレベルで測定できるのは少ないと思う」（同社開発部・岩田成弘次長）。専用PCソフトにより、測定、管理も容易にする。